

「モノづくりは、人づくり」



変わりゆく名古屋駅前～未来を見据えて…！

当オフィス(名古屋国際センタービル11階)から見える名古屋駅前の風景です。
一番右がルーセントタワー(180m)、隣、正面で建設中なのがJPタワー名古屋(195m予定)、その左隣に見えるやはり建設中が大名古屋ビルディング(180m)。奥のツインタワーは名古屋の玄関、JRセントラルタワーズ(245m)、そして一番左にそびえ立つのはミッドランドスクエア(247m)。
これから本格的な冬で、晴れた日には、雪を被った養老山地が高層ビル群の背後に楽しみ、毎日少しずつ出来上がってくる高層ビルとともに、なんとなく、明るく広がりある未来を感じさせます。
この雄大な景色を御覧に、是非、当オフィスに研修だけでなく、気軽にお立ち寄りください。

◆内容◆

- 1 中部「“質創造”マネジメント大会」報告
- 2 トヨタホーム(株)春日井事業所訪問
- 3 協会だより(2月5日新春講演会のご案内 他)

10月23日『中部“質創造”マネジメント大会』実施報告

【大会概要】先日10月23日、昨年同様にウインクあいち大ホールにて、中部“質創造”マネジメント大会を無事、開催させていただきました。

まずはご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

当日は当協会 豊田章一郎名誉会長も終日聴講くださいましたが、340名程の方々にご参加いただきました。

今年の大会内容は以下のとおりです。

【基調講演】中部品質管理協会会長 佐々木 真一

「モノづくりは、人づくり」

—日本産業の競争力強化—

【講演1】滋賀ダイハツ販売(株)代表取締役社長

後藤 敬一 氏

「『五幸』を実現する組織づくり」

【講演2】(株)メイドー 代表取締役社長

長谷川 裕恭 氏

「メイドーにおける品質経営
～継続的改善の風土とデミング賞大賞への挑戦～」

【特別講演】宇宙航空研究開発機構

安全・信頼性推進部部长

泉 達司 氏

「“質創造”と宇宙開発 ロケットの開発・打上げ」

佐々木会長基調講演

昨今、お客様の要求は多様である。

東アジア諸国の追い上げや国際情勢も不安定であり、複雑さが増す世の中ではあるが、今後のモノづくりの使命は不変である。すなわち「豊かな社会の実現に貢献すること」は不変である。

そのために、さらに

「創造性の発揮」

「品質は工程で造りこむ

(自工程完結)」

「人づくり」に焦点をしばり、

今後も愚直に取り組むことが

大事。中部品質管理協会もこの観点で今後臨む。



後藤社長ご講演

同社創立40周年にあたる1994年、36歳で社長就任。その際、

「五幸」の基本方針を発表。高い目標と現実とのギャップが開いたまま2000年に(株)リコーの桜井社長に出会い、「経営品質」の考え方に触れ、CSはすべての方針に網掛け状にかかっているものと気づく。以来、経営品質に取り組み、2013年日本品質経営品質賞受賞。受賞理由は「社員のやる気を引出し、組織の魅力を高める独自の革新活動を全社で展開している」こと。今後もCS=ESという視点で革新に取り組む。

長谷川社長ご講演

三河の中小企業であった同社が1000名規模、グループでは1500名規模の会社となり、従来のマネジメントの限界を感じていた時にデミング賞に出会う。

挑戦を決意してからは、中・長期経営目標を設定し、進むべき方向と課題を“見える化”。重点方策を全部門の前階層に展開・推進する手段として方針管理を活用。人材育成にも力を入れ、全社員の問題発見力と課題解決力の向上に取り組む。トップの主導で安全・5S点検、リスクマネジメントを実施し、2010年デミング賞、2013年デミング賞大賞受賞。QCサークル活動の活性化などにより、不良は減り売り上げは増加。今後も人材育成と継続的改善に取り組む。

泉 達司様ご講演

皆様ご存じのように、宇宙開発は1998年、そして2003年に重大な不具合を連続。抜本的な問題解決をすべく、安全・信頼性推進本部を置き、いくつかの専門部会に分かれて、原因究明や対策、信頼性向上に抜本的に取り組む、この度のイプシロンロケット打ち上げ成功となった。以下に主な取り組みを示す。

〈SDCA〉 個別開発製造における品質保証

開発・製造中の不具合対応

事故・打ち上げや軌道上での不具合対応

〈PDCA〉 不具合等の水平展開対応

イプシロンロケットの開発

新型基幹ロケットでのサービス向上・チャレンジ

信頼性保証・品質管理の体制・取組改善

トヨタホーム(株)春日井事業所訪問

1.会社概要

今回ご訪問させていただいた春日井事業所は、1987年操業開始。トヨタ自動車(株)住宅事業部として創設された最初の事業所。

2003年にトヨタホーム(株)設立。翌年は営業開始で、現在は、トヨタホーム(株)にて商品企画開発・生産・営業企画、トヨタホーム販売店にて営業・設計・施工を行っている。

春日井事業所の従業員は現在約600名。その内、生産人員は約300名。協力会社からも場内勤務で約150名が生産に従事している。

春日井事業所の生産能力は2,200戸/年であるが、この人員でこの生産能力の高さは、昔ながらの建築工法と比較すると数段の差であり、実際、どのようにそれがなしえるのか、見学前にとっても興味をもった。

愛知県での住宅販売は14年連続一位継続とのこと。

2.経営理念

まず最初にCS推進部の沼口部長(一級建築士)より、経営理念とブランドビジョンを伺った。



◇創業の精神:「日本の住まいをよくしたい」

◇ブランドビジョン:“Sincerely for You

～人生をごいっしょに～”

そして、その経営基盤の第一にTQMをベースにした

①お客様第一 ②品質第一

③人の和 ④グループの総力 ⑤社会への貢献

をあげ、トヨタウェイ2001に基づいている。住宅メーカーという異業種でも、改めて、トヨタウェイの浸透度と、トヨタグループ一員としての確固たる姿勢を感じた。

中部品質管理協会主催の「中部品質管理推進研究会」の例会で、トヨタホーム(株)様の春日井事業所に訪問させていただきました。

研究会メンバーは自動車関連が多く、今回は住宅という異業種、また、一品仕様のものづくりを学ぶ機会となりました。お礼とともにここに報告します。

3.住宅生産の特徴

自動車業界と大きく違う点として工場化率85%。

当然ながら「完全受注生産」。以下の課題を抱える。

①月々の受注戸数の変動が大きい

②ユニット毎の作業内容が異なり、工数差が大きい

これに対応すべく、同社ではそれぞれ以下の対応を図っている。

* 月々の戸数変動に対して

稼働カレンダー変動や、社内外応援で調整

* ユニット毎の工数差に対して

邸単位で平準化し、ライン投入。工数多いものは、

バイパス工程を設け、2邸でシャッフル生産

つまり、「一戸流し」「タクトタイム生産」といった「JIT」そして工場内では「アンドン」や「定位置停止」といった「自動化」の工夫が随所にみられ、トヨタ生産方式が、異業種でも十二分に生かされ、この考え方が、あらゆる業種に通じることを目のあたりにする機会となった。

専門技能習得に加え、同社が以下の教育も継続的に熱心に取り組んでいることも最後に触れ、報告としたい。

I) TPS自主研(2テーマ/年)

II) QCサークル活動(2テーマ/年、46サークル)



シールームで記念写真

2 / 5 新春講演会を開催します！

1. 新年ご挨拶 会長 佐々木真一
2. 講演

①「トヨタ自動車(株)が本気で取り組んできた自工程完結・再発防止とは！！」

元トヨタ自動車(株) 森 浩三 氏

②「問題解決から問題発見へ～“攻めの品質”で未来を描く」

ビジネスコンサルタント/(株)クニエコンサルティングフェロー 細谷 功 氏

<場所> ウィンクあいち 大ホール

<日時> 平成27年2月5日(木) 14:00~16:35

参加費無料!!

多くのご参加をお待ちしております!!

furuyaの品質SAIKOU

バリューチェーン（価値の連鎖）

「品質は工程で造りこむ」は、生産ラインで次の工程に悪いモノを送らない、次工程をお客様と思って仕事をする、この連鎖により最終工程から出庫される製品の品質が保証される、という考え方である。さらに製造業では、企画・開発部門から、設計、生産技術、製造、販売・サービスへと順次、仕事の流れていく。お客様のニーズを満たした製品をお客様にお届けするために、それぞれの部門の役割(使命)やアウトプットを明確にして、次の部門(工程)には、手戻りのない状態で仕事をつないでいくことが求められる。品質保証体系はこれらを規定したものと言える。

大事なことは、企業・組織はお客様のニーズを満たす製品・サービスを自ら定めて、それらを生み出すためには、どのようなプロセスで、どのような役割分担が望ましいのかを考えることにある。これがバリューチェーン(価値の連鎖)である。

お客様のニーズが変化すれば、その都度、バリューチェーンも見直されなければならない。近年、取り巻く環境が激変したにもかかわらず、従来通りのプロセス・組織の役割分担のまま対処している事例が散見される。これではお客様のニーズに応えることは難しく、持続的な成長は望めない。経営者・管理者は、常に最適なバリューチェーンを構築しなければならない。このため、内外の関係組織・部門なども含めたプロセス・役割分担の最適化に取り組み、お客様のニーズに応え続けていくことが、今まで以上に求められているのではないかと感じている。

【編集後記】 平成26年も終わろうとしています、皆様にはどのような一年だったでしょうか？協会は会長が交代し、遅まきながら、現状事業の見直しや新規分野への事業開発、HPリニューアル等、色々と前向きに動き出しています。平成27年度は、皆様にもっとご利用いただき、さらに身近に相談にのれる組織をめざし、頑張りたいと思います。これから益々よろしくお願いたします。(細)

(発行元)

中部品質管理協会

〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目47-1 名古屋国際センタービル11階

TEL(052) 581-9841 FAX(052) 565-1205

<http://www.cjqca.com>